

令和 6 年度事業報告

2024 年度の日本経済は、日銀が 17 年ぶりにマイナス金利を解除し、利上げに踏み切り、長年のデフレからの脱却に向けた大きな転換点を迎えた年でした。日経平均株価は史上最高値を更新、公示地価上昇率や賃金の上昇など、幅広い分野でインフレ経済への回帰が見られました。ただ、個人消費の復調やインバウンド需要により回復しつつも、2024 年通年の成長率はマイナスになり、円安や人出不足、海外景気の減速・停滞が逆風となったようです。この物価高や人出不足と人件費の高騰などの影響もあり、倒産件数が、2013 年以来 11 年ぶりに 1 万件を超え、3 年連続で前年を上回る結果となり、企業体質の改善も急務となりました。

出版市場規模は前年比 1.5%減の 1 兆 5716 億円だったと発表され、こちらも 3 年連続の前年割れでした。店頭売りは前年比 1%増でしたが、書店数自体の減少にも要因があり、書店をめぐる状況が改善しているとはいいがたい状況です。

そのような中、書店部門は、前年度よりのスリムな経営体質を目指すべく施策を継続させています。特に不採算店舗として、千早店を 8 月末に閉店をし、退店時臨時特別損失として、17 百万円を計上しました。また外商部門では、配送ルールの見直しによる配送コ

ストの削減や、EC サイトでの売上のアップなどの結果も出てきています。

システム開発部門の売上は前年度から大幅な減となりました。営業としては、大型システム案件の引き合いはあるもの今期中での受注とはならず継続案件となっています。ハード面の営業としては、POS の受注はあるものの、POS メーカーが受託後の生産を強め、在庫を持たなくなった事により、納期が 3～4 ヶ月待ち状態でした。その影響で今期での売上計上とはなりませんでした。新規に取り組んでいる AI については、引き続きメトロ書店での検証を踏まえ、より精度をあげる学習を継続しています。まとまりませんでしたが、AI システムへの引き合いも出てきました。

カレッジ部門のうち、日本での専門学校としては、特に学生募集に注力しています。新しい試みも行いましたが、予定の学生数は確保できず、従来通りの学生数となり、今後課題を残しております。逆に日本語科は、留学生が増加傾向にあり、教員の確保などが急務な状況です。

今年から力を注ぎ始めた人材紹介業ですが、本社から新オフィスに移転し、新たなメンバーで営業を始めました。人出不足の折もあり、引き合いも増えてきている状況です。今期は、ミャンマーの学生を主力に紹介事業を展開していますが、ミャンマー国内の事情もあり、学生を集める事が難しい状況です。

海外事業は、あらたにバングラデシュでの事業展開も本格化させ

ました。これで海外は2か国目となり、日本国内の日本語科への留学生の確保や、人材紹介可能な人員の確保に貢献していきます。更には別の国への進出も視野に入れた活動をしていく事になります。

人材事業と海外事業の売上は便宜上、カレッジ部門に含ませています。

事業全体としては、システム部門が売上を落とした事や書店部門で、退店時臨時特別損失を計上した事もあり、結果として減収減益となりました。